

(様式-1)

## 栃木県公共事業事前評価・自己評価書 [県土整備部 道路事業]

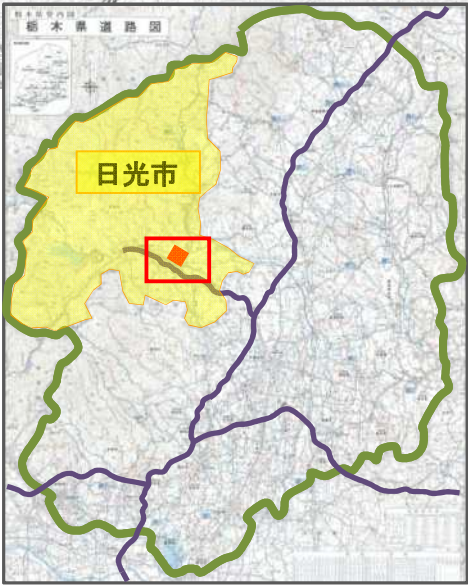
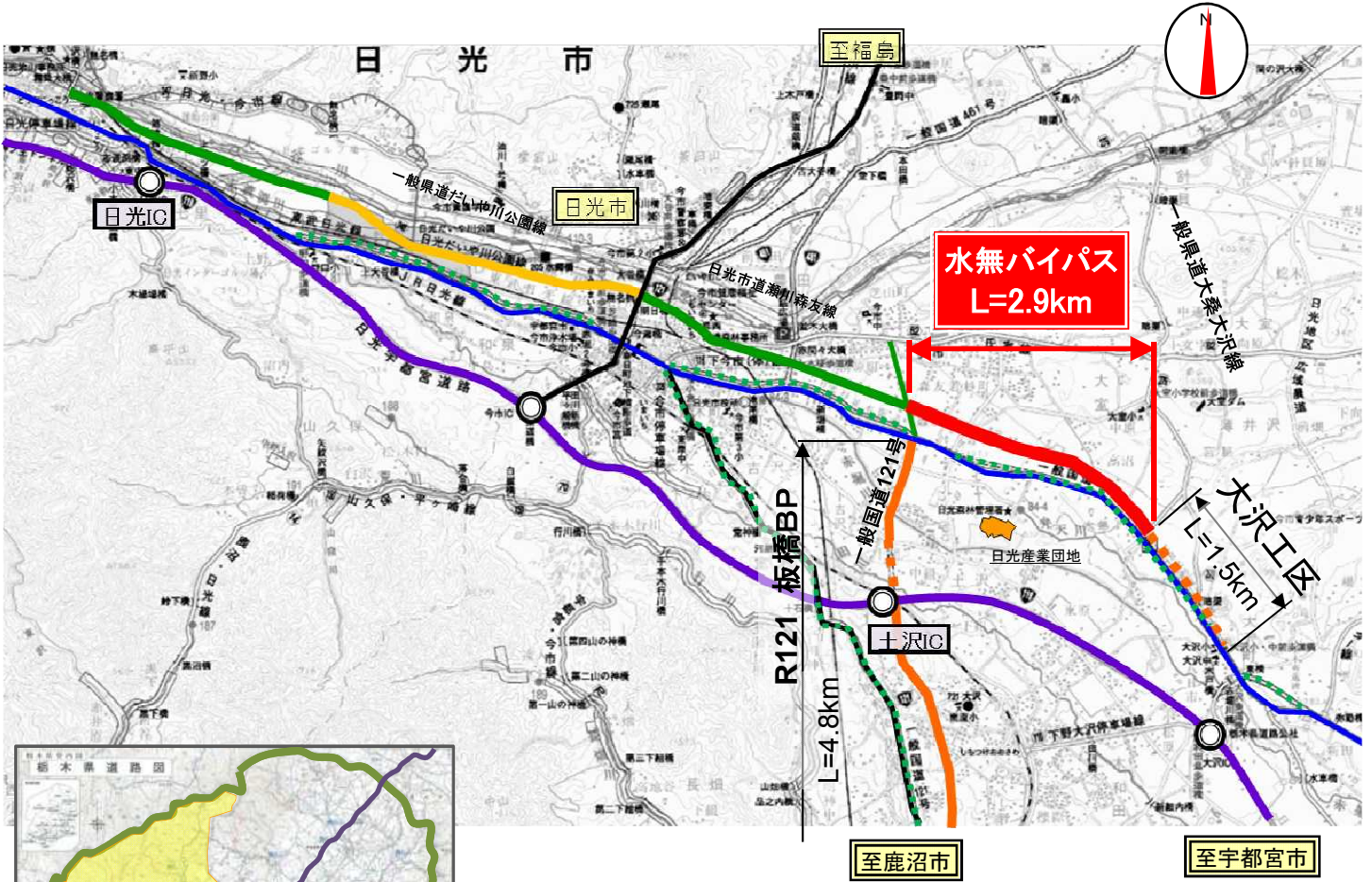
1/2

事業概要調書											
1 事業名	快適な道づくり事業										
2 事業箇所	一般国道119号 日光市 <sup>みずなし</sup> 水無バイパス工区										
3 事業の概要	(1) 事業目的 <p>一般国道119号は、日光市山内（世界遺産「日光の社寺」神橋）を起点とし、栃木県宇都宮市西原町（国道4号）に至る延長約39kmの幹線道路である。</p> <p>本路線は、沿線にかつての宿場町の町並みを残し、地域の生活を支えるとともに、日光鬼怒川観光圏へのアクセス道路として重要な役割を担っている。また日光市野口から大沢に至る一部区間は日光杉並木街道として有名である。</p> <p>水無バイパスは、大沢バイパス及び日光市道瀬川森友線に接続する延長2,900mの2車線道路であり、本バイパスの整備により、大沢から一般県道だいや川公園線を経て、日光杉並木を完全に迂回する幹線道路を形成するとともに、日光今市地域の道路ネットワークの強化を図るものである。</p> <p>水無バイパスは以下を事業目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日光・鬼怒川観光圏へのアクセス向上</li> <li>・自動車・歩行者自転車の交通安全確保</li> <li>・並木杉の倒木等による通行止めリスクの除去</li> <li>・日光杉並木街道保全</li> </ul>										
	(2) 事業内容 <p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道の沿道には杉並木が林立しており、車両の走行性向上や歩行者の安全確保のための現道拡幅が困難であることから、日光杉並木を迂回する延長2,900mのバイパス道路を整備する。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">全体延長 : 約 2,900m</td> <td style="width: 50%;">現況交通量 (H22年) : 10,477 台/日</td> </tr> <tr> <td>道路幅員 : 13.0m</td> <td>計画交通量 (H42年) : 12,600 台/日 (B P)</td> </tr> <tr> <td>車線数 : 2車線</td> <td style="text-align: right;">: 5,000 台/日 (現道)</td> </tr> <tr> <td>道路区分 : 3種2級</td> <td>設計速度 : 60km/h</td> </tr> <tr> <td></td> <td>構造物等 : -</td> </tr> </table>	全体延長 : 約 2,900m	現況交通量 (H22年) : 10,477 台/日	道路幅員 : 13.0m	計画交通量 (H42年) : 12,600 台/日 (B P)	車線数 : 2車線	: 5,000 台/日 (現道)	道路区分 : 3種2級	設計速度 : 60km/h		構造物等 : -
	全体延長 : 約 2,900m	現況交通量 (H22年) : 10,477 台/日									
	道路幅員 : 13.0m	計画交通量 (H42年) : 12,600 台/日 (B P)									
	車線数 : 2車線	: 5,000 台/日 (現道)									
道路区分 : 3種2級	設計速度 : 60km/h										
	構造物等 : -										
(3) 事業予定期間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">期 間</th> <th style="width: 50%;">事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度～平成27年度</td> <td rowspan="2">用地調査、用地取得 工事実施</td> </tr> <tr> <td>平成28年度～平成31年度</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成25年度～平成27年度	用地調査、用地取得 工事実施	平成28年度～平成31年度					
期 間	事 業 内 容										
平成25年度～平成27年度	用地調査、用地取得 工事実施										
平成28年度～平成31年度											
(4) 事業費及び内訳	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">事業費</th> <th style="width: 70%;">約 25 億円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費内訳</td> <td>           工事費 : 約 14.8 億円            用地補償費 : 約 9.4 億円            測量設計費 : 約 0.8 億円         </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国費 : 55%、県費 : 45%</td> </tr> </tbody> </table>	事業費	約 25 億円	事業費内訳	工事費 : 約 14.8 億円 用地補償費 : 約 9.4 億円 測量設計費 : 約 0.8 億円	財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%				
事業費	約 25 億円										
事業費内訳	工事費 : 約 14.8 億円 用地補償費 : 約 9.4 億円 測量設計費 : 約 0.8 億円										
財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%										
(5) 事業発案の経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工区南側に接続する大沢バイパスが平成25年度に全線供用予定</li> <li>・日光市からの早期整備要望</li> </ul>										
4 県計画への位置付け	栃木県の道路・交通分野の将来構想である「人にやさしい県土60分構想」に基づき、都市内における拠点を結ぶとともに地域の生活を支える安全で快適な道路づくりを目指す。										
5 他計画・他事業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光市土沢地区「日光産業団地」(16ha) (県土地開発公社)</li> <li>・日光杉並木街道保存管理計画 日光杉並木街道樹勢回復事業 (県文化財課事業)</li> </ul>										
所轄部課名	県土整備部 道路整備課										

別添図面・・・事業位置図

事業評価調書	
事業名	快適な道づくり事業
1 事業の必要性	<p>本路線は、宇都宮市と日光市を結ぶ重要な路線であるにもかかわらず、水無地区の現状は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺バイパスが供用間近となっており、それらと一体的にネットワークを構成する道路が必要となっている。</li> <li>・歩道がなく、通行時に危険な状態。 交通事故発生件数 H17～H22：49件（8.2件/年）</li> <li>・並木杉の倒木や枯死が進み、道路管理上・杉並木の保全上の問題を有している。 杉並木が原因の通行止め回数 4.3回/年（H19～H24.10現在、日光街道） 日光～大沢間の杉本数 S36：6,767本 →H23：5,005本（日光街道）</li> </ul>
2 事業の適時性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工区南側に接続する大桑大沢線大沢バイパスが平成25年夏に供用開始予定である。</li> <li>・本工区とともに、本地域周辺の道路ネットワークを形成する国道121号板橋バイパスが平成25年春に供用開始予定である。</li> </ul>
3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工区起点側の今市～森友間は市道瀬川森友線がバイパスとして整備済み、終点側の水無～大沢間は大桑大沢線大沢バイパスが整備完了予定である。国道119号のバイパス道路を完成するために本工区を事業適地であると判断した。</li> </ul>
4 事業手法の適切性（県が事業主体となる理由等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国道119号の道路管理者である県が事業を実施する。</li> </ul>
5 事業により予想される効果及び影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済効果（完成2車線） <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比(B/C) 2.0</li> <li>・総便益(B) 45億円 ※ 総便益は、供用後50年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少効果等の合計である。</li> <li>・費用(C) 23億円 ※ 費用は、建設費に供用後50年間の維持管理費を加算している。</li> </ul> </li> <li>○日光鬼怒川観光圏へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大沢バイパスと市道瀬川森友線、板橋バイパスを連絡することで、インターチェンジへのアクセスや日光鬼怒川観光圏へのアクセスが向上する。</li> </ul> </li> <li>○自動車・歩行者自転車の交通安全確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通がバイパス道路へ転換することにより、現道での交通事故の減少が図られる。</li> <li>・新たに歩道が整備されることで、歩行者自転車利用者の安全確保が図られる。</li> </ul> </li> <li>○並木杉の倒木等による通行止めリスクの除去 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日光杉並木区間のバイパスが整備されることで、並木杉の倒木等による通行止めリスクがなくなる。</li> </ul> </li> <li>○日光杉並木街道保全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通過交通がバイパスに転換することで、並木杉の生育環境改善に寄与する。</li> </ul> </li> </ul>
6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事コスト縮減行動計画2010(平成22年7月栃木県)に基づき、設計・施工各段階においてコスト縮減を検討する。</li> </ul>

# 一般国道119号 水無バイパス 位置図 S=1:75,000



現在整備中のバイパス	
箇所名	供用予定
①板橋BP (R121)	H24供用予定
②大沢BP (R119)	H25供用予定

【凡例】	
水無バイパス(評価箇所)	<span style="color: red;">■</span>
バイパス整備箇所(破線: 事業中)	<span style="color: orange;">■</span>
日光市道(瀬川・森友線ほか)	<span style="color: green;">■</span>
現道	<span style="color: blue;">■</span>
日光杉並木	<span style="color: green;">■</span> <span style="color: green;">■</span> <span style="color: green;">■</span> <span style="color: green;">■</span>

【標準横断面図】

